



「過去・未来！」日本医療社会福祉協会全国大会 in 神奈川



佐野 晴美

今から25年前の1992年、全国大会が神奈川の横浜の地で行われました。当時、医療ソーシャルワーカーの資格化問題の真っ最中であり、神奈川大会の前後の総会や臨時総会は何時間にもおよび、医療ソーシャルワーカーの資格はどうあるべきか、私たちは何をやる職種なのか、ということについて全国の医療ソーシャルワーカーの諸先輩方が真剣に討議しており、その迫力の凄さは今も忘れられないほどでした。結果、神奈川横浜大会の翌年の神戸大会で、私たち医療ソーシャルワーカーの資格は「社会福祉士である」と決議されました。私たちは、医療職でなく福祉職である。アイディンティーはそこにある。と強く意識したものです。私は当時、新人のソーシャルワーカーで、こうした総会の討議や、大会の特別講演や分科会などに参加し強い刺激を受けたことで、「私たち医療ソーシャルワーカーは、福祉職であり医療の場で患者や家族の生活問題の解決調整援助をしていくのだ」との学びになり、それが現在の私の基礎となっているのだと強く感じています。また、1992年の神奈川の横浜大会では、勤めていた病院の上司が神奈川県協会の理事を務められていたので、私もマニュアル製本などを手伝った思い出があります。今振り返ってみると、大会会場が当時建設されて間もない、みなとみらいの国際会議場だったことや、資格化問題のため総会が長いということなど含め、いろいろ苦労も多かったのではないかと思います。が、県協会理事の方々が何度も集まり会議を重ね、一生懸命に大会準備に取り組まれていたチーム力の良さが思い出に残っています。

大会テーマは「医療と福祉と生活とーひとが人として生きるためにー」でした。今

聞いても素敵なテーマですね。現代風に言う「ひとが人として生きるために」は、次のステップ「その人らしく生きるために」でしょうか？

さて、あれから25年。この様な新人時代の思い出があるため、2019年の神奈川大会の実行委員を県協会が募っていると聞き候補しました。25年前に比べると現在は医療や社会情勢も大きく変わり、現場のソーシャルワーカーは在院日数短縮化や在宅復帰率に追われ、限られた社会保障制度の中、多様な患者さんや家族の生活を支えるために、地域包括ケアシステムの取り組みが必要だったり、あれこれ苦慮しているではないでしょうか？時にはソーシャルワーカーの仕事や、所属する組織や地域との関係構築、維持の中で力尽きそうになったりすることもありますよね。私はこの繰り返しです。いかに自分のモチベーションを維持し、ソーシャルワークの倫理・価値に基づいた、患者さんの為の実践を行うか？真剣勝負でパワーを必要とします。この神奈川大会が、私たち医療現場のソーシャルワーカーにとって、学びがあり、そして明日からの取り組みの為にパワー充電できるような素敵な大会にしていきたいと考えています。ぜひ皆さん、大会を盛り上げていけるようご協力お願いいたします。

神奈川デッサンクイズ④
「さて？ここはどこでしょう？」



答えは次号で！

シュウマイの消費量全国1位で、高校野球の甲子園通算勝率1位。ジャムが好きで、IT好きで子供の教育に熱心。全国一狭い香川と面積だけは近いのに、人口はほぼ10倍のすさまじい医療圏で日夜奮闘されている、神奈川県のご近所みなさん！今年の6月は、瀬戸内海を跨ぐ瀬戸大橋を渡り香川へ来ませんか？



瀬戸大橋

小さな県ではありますが、みなさんの熱い意気込みとソーシャルワークの志を共に研鑽したいと考えています。大会テーマの「まんががんソーシャルワーク」は「まんががん（香川の方言）＝混然とするすべて」を含んだソーシャルアクションを意図しています。新潟大会・北海道大会に続き、ソーシャルワークは地域で生活することを支えるためのものであり、領域を超え様々な専門家・当事者・支援者が混然となりながら生きてゆくことを支えるものではないかと考えます。

今年の医療・介護の同時改訂の嵐の中で、我々はその真価を問われていると考えます。ソーシャルワークに携わり医療ソーシャルワークを展開してゆく専門職として、専門分野の研修のみならずマクロの異文化である多職種や地域・生活者と、病院といった枠組みの垣根を超えて繋がらしましょう。芯は強くても柳のようにたおやかで、包容力（まんががん）を持ち平成の時代を通り抜け、新たな時代に躍進する力を身に着けようではありませんか。四国は、空海が開闢された札所を巡る『お遍路』の文

化が色濃く残っています。この『お遍路』文化は、札所めぐりの自己覚知の旅であり、日常と離れた内省を基に生き方を再構築される時間を生きる旅です。また、四国各地にはお遍路を支える「お接待の文化」が残っています。他者を利己にとらわれず受け入れ送り出す、人として豊かな温かみのある暮らしがあります。まさに、我々の目指すソーシャルワークが黙々と穏やかに培われていると思っています。

飛び交う情報や増加する業務と細分化されつつあるソーシャルワークを、うどん県で腰のすすり、



プロジェクトチーム早朝石段登り特訓

骨付き鳥をおしゃぶり、とろける和三盆スイーツを食べながら全国の皆様と語り明かし、より高みを目指し自己覚知のため切磋琢磨のきっかけになれば幸いです。次年は、新元号となって初めての開催となる神奈川県大会へバトンを託すために、がんばり



北海道大会でのアピール

ます。うどん県民を代表して、意外と近い四国香川へ多くの皆様のお越しをお待ちしています。

勝手にうどん県民代表香川県医療ソーシャルワーカー協会一同



かま玉うどん

「よし！香川に行こう！」…香川大会の案内は4ページに掲載してあります。

神奈川デッサンクイズ③
「さて？ここはどこでしょう？」



正解は・・・「鶴岡八幡宮」

1063年、源頼義が奥州を平定して鎌倉に帰り、源氏の氏神として出陣に際してご加護を祈願した京都の石清水八幡宮を由比ヶ浜辺にお祀りしたのが始まりです。その後、源氏再興の旗揚げをした源頼朝は、鎌倉に入るや直ちに御神意を伺って由比ヶ浜辺の八幡宮を現在の地にお遷し、1191年には鎌倉幕府の宗社にふさわしく上下両宮の現在の姿に整え、鎌倉の街づくりの中心としました。（鎌倉市観光協会HPより）

研究参加者の「声」を正しく届けるための研究倫理



赤澤 輝和
(日本女子大学
社会福祉学科)

皆さんは何か新しいことをはじめるとき、カタチから入るタイプですか。

例えば、冬の暴飲暴食と次回の健診が頭を過り、運動することを決心しました。その時、まずはカタチからウェアやシューズを検索してしまう方は研究の素質があるかもしれません。で

も、明日からエレベーターを使うのをやめようと即行動に移す方も魅力的です。なぜなら研究にはある程度カタチがあり、それを実行する行動力が必要だからです。この連載原稿「私たちの学会発表講座」には学会発表にチャレンジして欲しいという想いが込められています。すでに水野会長と一杉さんの原稿を読んで学会発表をやってみたいと思った方は、2019年の神奈川大会に向けてホームページで今年の香川大会の演題募集要項をチェックしてください。赤字と太字で書かれた「研究倫理」について目に飛び込んでくると思います。

それでは、研究のカタチのひとつである「研究倫理」について考えていきましょう。人を対象にした研究では、簡単に言うと研究参加者を守ることです。それは基本的に研究に参加した「その人」には直接の利益がなく、不利益があるかもしれないからです。しかし、研究結果は多くの「人たち」に利益を及ぼす可能性があることから、倫理的配慮のもと研究を実施します。どのような倫理的配慮を行えばよいかについては、日本医療社会福祉協会の「調査研究倫理指針」をご覧ください。そして、研究のためにわざわざ行うこと（質問紙、インタビュー、介入など）がある場合は、倫理審査委員会に研究計画書を提出し、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づく審査を受け、承認を得る必要があります。しかし、すべての機関や施設に倫理審査委員会があるとは限りません。その場合は、共同研究者の

所属先、倫理審査の委託先、所属する職能団体や学会にないか探します。いずれも難しい場合は、倫理指針に基づく自己や第三者チェックを行い、所属長の許可のもと研究情報を開示し、参加拒否権を保証（オプトアウト）した上で実施できるか検討します。

ただし、介入研究を行う場合は倫理委員会の承認が必須となります。所属先に倫理審査委員会がない方の研究機会を保証することは今後の課題のひとつです。

次に倫理審査を受ける必要があるかについて、よくありそうな例で考えてみます。昨年の北海道大会演題でも多かった退院支援システムやプロジェクトなど非個人情報のみを用いた研究、事例研究の場合は倫理審査の必要はありません。一方、相談記録など包括同意の範囲内のデータを用いる場合は、その都度個別同意をとる必要はありませんが、研究計画については倫理審査を受け、オプトアウトも必要になります。いろいろなケースがありますが、その行為は研究か医療や相談などの実践か目的で区別して考えます。ただし、いずれにしても研究発表を行う際は、所属長の承諾を得る必要があります。

研究において研究者がコントロールできるところは方法だけです。研究背景は先行研究に学び、結果は期待した結果がでないかもしれませんが、考察は結果に基づいて行うしかありません。そのため、倫理的配慮を含めた方法が適切でない研究は、研究参加者の声を正しく反映することができません、倫理という言葉のみをみて、倫理綱領を思い浮べた人も多いと思います。実は、研究も臨床も人間の尊厳、社会正義など倫理原則に変わりはありません。

このおカタイ文章を最後まで読んでいただき「学会発表やってみたい」から、「やるからには臨床と同様に誠実に取り組もう」という気持ちになってもらえたら、愛犬の抱っこ要求を拒みながら書いた甲斐があります。



第4回・第5回 かながわ全国大会みらいプロジェクト全体会議報告

春の足音と共にこころ踊る季節となってきましたが、みなさまはどんな新年度をお迎えでしょうか。昨年秋にスタートした通称「みなプロ」、全国大会実行プロジェクトも早いものでそろそろ半年を迎えようとしています。今回は1月30日と2月13日に開催された第4回・第5回全体会議のご報告をしたいと思います。全体としての大きな動きは、大会テーマが「ともに生きる～みらいのソーシャルワークの風をつくる～」に決定したことではないでしょうか。神奈川県憲章でもある「ともに生きる」を大きなテーマとして掲げ、家族構造の変化や制度改正、文化・民族の多様化などの大きな社会環境の変化があるなかで、先輩たちから学び、それを若い世代“みらい”へと繋いでいく、生き生きとした大会にしたいという思いを、港町・神奈川らし

く“風”という言葉で表現したものです。

また、それぞれの部会も少しずつですが、形になり始めました。学術部会では3月に学会発表に向けたフォロー講座を開催。今後もニューズペーパーでの紙面講座とフォロー講座を企画していくなど、学会発表希望者へのバックアップ体制を整えていく予定です。広報部会ではカモメのロゴマークを決定。今後、県協会および全国大会に関する印刷物に登場します。プロモーション部会ではプロモーションビデオで使用するカモメのぬいぐるみ使用の許可申請を行い、現在、結果待ちとなっています。ぬいぐるみが決定すれば、いよいよプロモーションビデオの撮影に入ります。みなさまのお近くにも撮影隊がお邪魔するかも?!

今月中には会場として予定されている「川崎市コンベンションホール」も完成。実際に会場へ足を運び、会場の広さを確認しながらイメージを広げ、講演やシンポジウムなど全体プログラムに着手していくこととなるため、より形がはっきり見えてきます。さあ、6月の香川大会が終わるといよいよ次は神奈川大会です。全国の仲間たちに思いきり楽しんで帰っていただけるよう、神奈川県のソーシャルワーカーが一丸となって準備しましょう。

はせがわ



長谷川 知美



第66回公益社団法人日本医療社会福祉協会全国大会（香川大会）

テーマ：地域まんでがんソーシャルワーク～生活することを支えるために～

会期：2018年6月15日（金）～17日（日）

会場：サンポート高松 かがわ国際会議場・展示場

参加費：事前参加登録（会員 10,000円、非会員12,000円）、交流会 7,000円

当日参加申込（会員 11,000円、非会員13,000円、学生3,000円）

※ 神奈川県協会のみの方の会員の方も会員料金となります！

※ 詳しくはホームページをご覧ください(<http://www.knt.co.jp/ec/2018/jaswhs/>)

<香川大会に参加しよう！>

かながわ大会を成功させるためにも、全国大会がどのように運営されているか、見に行きましょう！また、交流会ではかながわ大会のプレゼンテーションも予定しています。ぜひ、交流会も参加して、香川大会を応援するとともに、かながわ大会へのつなぎ手となりましょう！

<横浜駅から高松駅までのアクセス>

①横浜駅—【バス】—羽田空港—【飛行機】—高松空港—【バス】—高松駅

飛行機は、JAL、ANA、それぞれ6～7便あります。飛行機は早期割引など使えば、片道約11,000円で行くことも可能です。所要時間 約3時間20分。

②横浜駅—【JR】—新横浜—【新幹線】—岡山—【JR】—高松駅

新幹線の場合、片道約18,000円、所要時間は約5時間かかりますが、飛行機が使えない方でも十分に行くことが可能です。

【編集・発行】

かながわ全国大会みらいプロジェクト広報部 櫻井優光、鈴木克典、高瀬昌浩、中村悦史、長谷川知美、水野茂樹
(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会事務局 TEL/FAX 045-827-1217 E-mail: msw.kana@proof.ocn.ne.jp